

第27回

うつのみやこども賞だより

平成22年度 第2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『とどろけ淵のメツケ』

富安陽子／作 広瀬弦／絵（佼成出版社）



～読んだ本の感想より～

- メツケは、みんなを助けるために1人でヘソ穴に飛び込むなんて勇気があるんだなあと思いました。
- ソッカとヨイショとコラショがメツケを思う気持ちには感動した。
- 最後にソッカとヨイショとコラショがメツケを助けようとするところがよかった。
- ソッカがメツケのかげを一生懸命探すのがかわいとおもいました。
- 自分たちの住んでいる所を守るために命をなげだせるメツケはすごい。
- 石の王さまのたまごがすごいと思った。
- メツケはいい友達をもったと思った。
- とても面白かった。最後に助かってよかった。
- いろいろな出会いがあり、メツケが成長するのがすごかった。

『青い目の王子』 三田誠広／作（講談社）

- 少し悲しい話だけれど、その先に「生きる勇気がわいてくる」本でした。
- 王子がなぜ王にならないで旅に出たのかが不思議です。
- 最初にあった歌のとおり最後には目をとられてしまうところが衝撃的だった。
- 王子の青い目をとるときに、たてごとをならすところが感動した。
- 王子が自分を犠牲にしてまで、国を平和にしようとしているところが良かった。

『魔法の庭へ』 日向理恵子／作（童心社）

- いろいろなところでハラハラした。ナナミとカゲルとクーの冒険が面白かった。
- あんなにイジワルだったホルダが、最後にミミさんのために泣いたので、本当はホルダもやさしいんだなと思いました。
- 一度、人間の世界に戻されてしまってもあきらめずに、みんなを助けようとするところがとてもよかったです。
- カゲルやクー、ナナミの友情がよかった。
- 現実の世界にも本当に妖精がいたら面白いだろうなと思いました。
- 今はないかもしれない別世界をとらえて書いている作者さんはすごいと思いました。
- 魔法の庭がナナミの心の中にあっただのが驚きました。

『ミクロ家出の夜に』 金冶直美／作（国土社）

- 「あみだなババア」がすごい発想だと思った。
- 「家族」についてよく考えさせてくれる本でした。
- お父さんとあみだなババアを会わせてあげるところがすごくよかった。
- あみだなババアと美陽が意外と身近な関係のところびっくりしました。
- この本は、いろいろと不思議が多かったけど、最後に問題が解けてよかった。
- 電車の中に骨を置いていくなんて、とてもひどいことだと思いました。